

鐵道の埼玉

埼玉県立文書館

開館50周年&リニューアル記念企画展
国指定重要文化財 埼玉県行政文書公開

— 明治から現代へ —

展示解説図録



中山道汽車賃銭時間表(部分) 埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵



彩の国
埼玉県

開催にあたって

埼玉県立文書館は、昭和44年(1969)の開館から50周年を迎え、平成31年(2019)4月にはおよそ2年にわたる大規模改修工事を終えて、リニューアルオープンいたしました。この節目の年を記念して、今年度は4回の記念企画展を開催します。

第3回目の「鉄道の埼玉 ―明治から現代へ―」では、明治時代を中心に、現代に至る埼玉県の鉄道と鉄道に関わる人々の歴史を描き出します。

「交通の要衝」として人々が行き交い、賑わう埼玉県。その歴史的背景の一つに明治時代以来の鉄道の整備がありました。明治16年(1883)に日本鉄道会社による上野から熊谷までの路線(現在のJR高崎線)が開業して以来、鉄道はビジネス、レジャーや通勤の足として県民に親しまれ、また駅は地域発展の核となってきました。

本展では、そうした鉄道と地域社会の関係や県内の鉄道のルーツなどを、当館が収蔵する国指定重要文化財埼玉県行政文書を含む公文書や古文書、また県内外から御出品いただいた貴重な資料によって明らかにします。

本展により、鉄道からみた埼玉県の近現代史、「鉄道の埼玉」への理解を深めていただくとともに、文書から明らかになる歴史の面白さを感じていただければ幸いです。

最後になりましたが、本展に御出品いただきました御所蔵者・御所蔵機関、御協力いただいた方々に心からお礼申し上げます。

令和2年1月14日 埼玉県立文書館長

埼玉県立文書館開館50周年&リニューアル記念企画展 国指定重要文化財 埼玉県行政文書公開 「鉄道の埼玉 ―明治から現代へ―」

主 催 埼玉県立文書館

会 場 埼玉県立文書館 展示室

会 期 令和2年(2020)1月14日(火)～3月8日(日)

凡 例

- ・本書は、埼玉県立文書館開館50周年&リニューアル記念企画展国指定重要文化財 埼玉県行政文書公開「鉄道の埼玉 ―明治から現代へ―」の展示解説図録である。ただし、紙幅の都合により、掲載していない資料もある。
- ・掲載資料には、資料名称、年代、所蔵機関・所蔵者を付した。埼玉県立文書館収蔵文書については資料番号を付した。
- ・会期中に展示替えを行うため、本書に掲載されていても展示されていない場合がある。
- ・本書への掲載にあたり、当館目録掲載の資料名称を適宜改めた場合がある。
- ・写真は他機関から提供されものを除き、文書館職員が撮影したものである。なお写真の縮尺は同一ではない。
- ・本展の企画、図録の編集・執筆は佐藤美弥が担当し、木村遼之が補助した。

表紙題字の「鉄道」の文字は当館収蔵「日本鉄道会社書類」(根岸家文書836)の「日本鉄道会社定款」表紙からとったものです。

謝 辞

本企画展を開催するにあたりまして、貴重な資料を御出品いただきました御所蔵者・御所蔵機関、また御協力いただきました関係各位に心から感謝申し上げます。

(敬称略/順不同)

埼玉県立歴史と民俗の博物館
東日本旅客鉄道株式会社大宮総合車両センター
郵政博物館

齊藤武司

埼玉新都市交通株式会社
西武鉄道株式会社
秩父鉄道株式会社
東武鉄道株式会社
東日本旅客鉄道株式会社

奥原哲志
河野真理子

19世紀初めに英国で発明された蒸気機関車は、幕末期に開国を求めて来航したロシアや米国の艦隊によって、模型のかたちで日本にもたらされました。慶応4/明治元年(1868)の明治維新後、「殖産興業」を掲げて産業振興を目指す新政府は、明治5年(1872)に東京(新橋)・横浜間に日本最初の鉄道を開業しました。

慶應義塾を開き、西洋の文化を日本に広めた福沢諭吉は、明治12年(1879)に出版した『民情一新』で、蒸気船、蒸気機関車、電信や郵便といった、19世紀に発明された交通・コミュニケーションの新しい技術が、人の心や社会を大きく変化させるだろうと予想しました。

埼玉県内では明治15年(1882)に川口で日本鉄道会社の東京・前橋間の路線の建設工事が始まり、翌年には、上野・熊谷間が開業しました。鉄道の登場は県内においても、それまでの徒歩・馬や船中心の交通事情をいかに変化させ、県民の生活や産業にも大きな影響を与えました。



福沢諭吉『民情一新』 明治12年(1879) 青木家文書832

福沢諭吉が著した『民情一新』の扉。幡羅郡下奈良村(現熊谷市)の名主家に伝来した一冊。福沢は本書で、西洋の「文明開化」は蒸気機関の発明による蒸気船や鉄道、電信や郵便といった交通・通信技術の発達によるもので、この新たな技術が人の心や社会を大きく変化させる力となると述べています。

從東京上野至武州熊ヶ谷蒸気車往来繁栄之図(上)

明治16年(1883) 埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵

日本鉄道会社線の上野・熊谷間が開通した頃に出版された錦絵。人であふれる上野の停車場から、中山道沿いに熊谷まで走る列車を描いています。

武州川口鉄橋図秩父八王子遠景(下)

明治18年(1885) 埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵

荒川橋梁を渡る日本鉄道会社の列車を埼玉県側から描いた錦絵。材木を運ぶ筏や昔ながらの茶店と郵便配達人や人力車といった新旧の文化が一つの画面に描かれています。



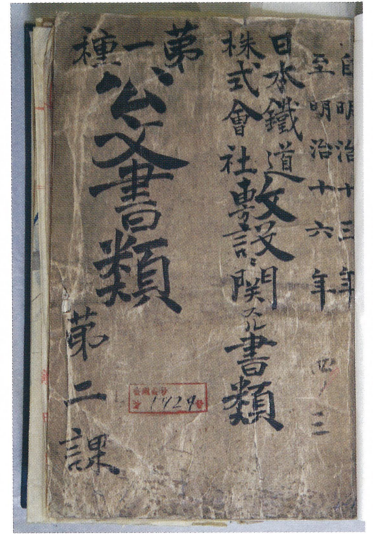
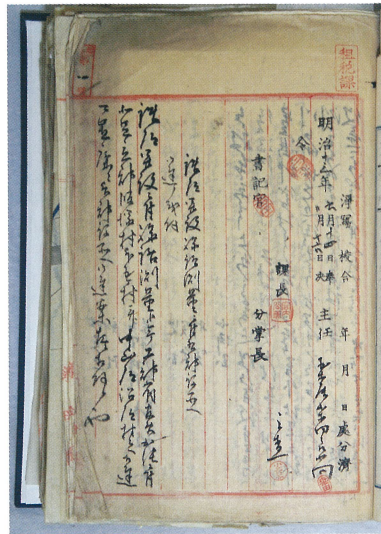
明治2年(1869)、政府は東京・京都間の幹線と支線として東京・横浜間、琵琶近傍・敦賀間、京都・神戸間の鉄道敷設計画を決定し、明治5年(1872)には東京新橋・横浜間の鉄道を開業しました。東京・京都間の路線は沿岸の東海道と内陸の中山道のどちらを通るべきか決まっていなかったが、沿線開発などの観点から、次第に中山道ルートが有力になっていきました。

明治13年(1880)2月、政府の工部省鉄道局は中山道ルートの一部として、東京・高崎間の測量を開始し、建築工事着手の許可を得ましたが、建設費が手当てされず、11月には許可が取り消されました。他方、従来から鉄道建設を企画していた旧公家や旧大名などからなるグループによって、明治14年(1881)11月に日本で最初の私設鉄道会社である日本鉄道会社が設立され、同社が東京・前橋間の路線(第一区線)とその路線から分岐し青森に至る路線を建設することになりました。第一区線は、明治15年(1882)6月5日に川口で建設工事が始まりました。翌年7月28日には上野・熊谷間が開業しました。

日本鉄道の2つの路線が通ることとなった埼玉県内では、株式の募集や用地の提供など、地域社会から様々な反応が現れました。

1 誕生

明治13年(1880)6月、工部省鉄道局による東京・高崎間鉄道の線路測量に際して沿線の村々に注意を促すため、埼玉県は各郡にあてる文書を決議しています。しかし、同年11月に東京・高崎間鉄道の建設は財政難を理由に中止されました。埼玉県令白根多助と群馬県令榎取素彦は公債を募集し、広く資金を集めて鉄道を建設するよう求めました。他方、元老院議員安場保和らは内務卿松方正義や右大臣岩倉具視に政府の特別な保護を受けて設立する私設鉄道会社を提案し、好感触を得ると、翌年2月に東日本各県の県令に出資者の募集を依頼しました。4月、埼玉県でも各郡長を通じて地域の有力者に出資が呼びかけられ、11月11日に日本鉄道会社が設立されました。

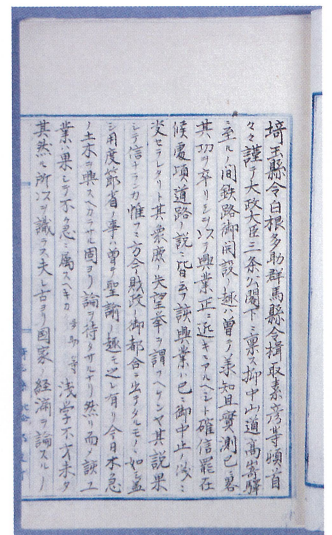
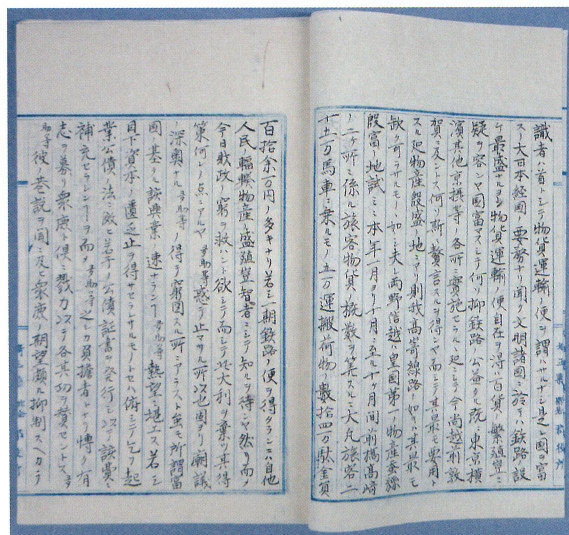


東京高崎間鉄道開設線路測量二付各郡役所へ達案

「日本鉄道株式会社敷設二関スル書類」のうち

明治13年(1880)6月 埼玉県行政文書 明1729-1 **重要文化財**

東京・高崎間鉄道建設のために工部省鉄道局の官員が測量をするにあたって、管内の村々にあて注意すべき事柄を県が郡役所に伝達した文書です。



中山道高崎駅間鐵路御開設二付稟申

「中山道高崎駅間鉄道開設許可願」のうち

明治13年12月(1880) 鈴木(庸)家文書7156

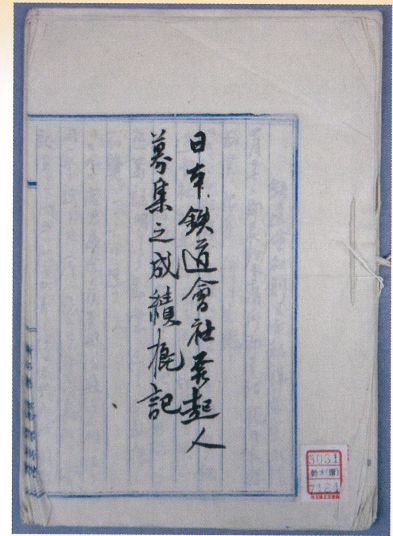
政府による東京・高崎間鉄道の計画は財政難のため中止となってしまいました。沿線にあたる埼玉県令白根多助と群馬県令榎取素彦は、太政大臣三条美実にあて、鉄道建設の重要性を述べ、自らも引き受ける公債の発行によって資金を調達し、鉄道建設を進めるよう懇願しました。本資料は比企横見郡長が書き写したものです。



鉄道拡張会社結合二関スル件「勸業部 通信」のうち

明治14年2月(1881) 埼玉県行政文書 明1509-7 **重要文化財**

元老院議官の安場保和らが政府の実力者であった岩倉具視の賛同を得て、日本鉄道会社を設立するにあたり、沿線の埼玉県をはじめとした関東・東北諸県の県令に対して協力を求めた書状を書き写したものです。



日本鉄道会社發起人募集之成績概記

明治14年5月(1881) 鈴木(庸)家文書7184

埼玉県は県内各郡長を通じて、地域の有力者に日本鉄道会社への出資を勧誘しました。本資料は比企横見郡長が勧誘の事務を記録したものです。



日本鉄道会社の路線は、明治39年(1906)に国有化され、政府の所管となりました。その後、昭和24年(1949)に独立採算制の日本国有鉄道が発足し、昭和62年(1987)には国鉄分割民営化により、東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)が誕生しました。同社の路線は現在、県内に新幹線や高崎線など9路線があります。平成27年(2015年)には北陸新幹線が金沢駅まで開業し、新しいE7系新幹線が走っています。

北陸新幹線かがやき E7系(個人蔵)



埼玉県内鉄道交通網略図 (本展関係の鉄道を中心に)

—— 明治期に開業
 大正期に開業



- ・本展に關係する鉄道路線を簡略に示した図であり、ある一時点の状況を示したものではありません。
- ・日本鉄道については、明治18年頃までの状況を示しています。県内の停車場は開業年を付し、後年開設された蕨、川口町停車場の開業年も示しました。県外の停車場は主要なものを示しています。
- ・日本鉄道以外の鉄道については、主要な停車場を示し、開業時から大正期頃までの延伸の状況を示しています。